

## 1、今年は何事記と日本書紀の年

今年は何事記と日本書紀の年。様々な関連行事があって、賑わっているようだ。

何事記の発起者は天武天皇。稗田阿礼や太安万侶に命じて編纂され、712年に完成した歴史書である。この712年の完成から1300年経った今年が記念の年。

日本書紀も発起者は天武天皇。藤原不比等・舎人親王・川島皇子などによって編纂され、720年に完成した日本の正史といわれる。

舎人(とまり)親王(676~735)の父は天武天皇。母は天智天皇皇女の新井部皇女で、日本書紀編纂の功績により彼は『崇道尽敬皇帝』との称号が贈られている。清水の小島に『親王囃し』が伝承されているが、舎人(とまり)親王没地を小島とする説は不確かである。

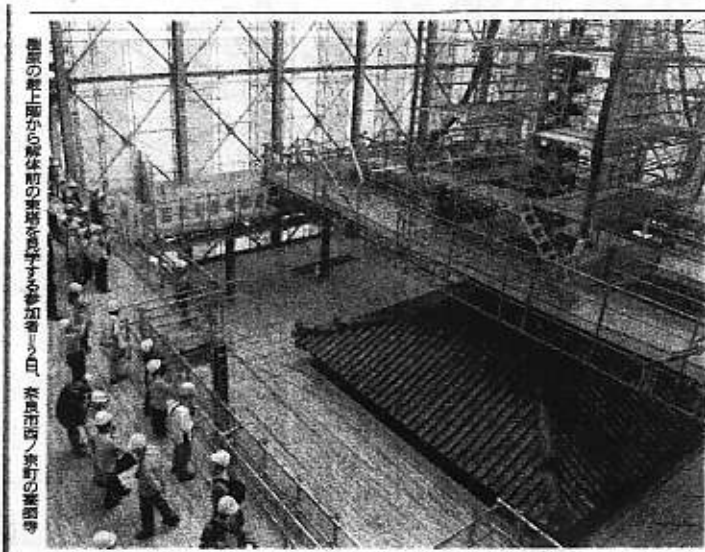
何事記と日本書紀を合わせて『記紀(きき)』という。

私事ながら何事記は私の子供時代の愛読書だった。父の書棚にあった『三體何事記』というもので、三體とは万葉仮名・その読み下し・現代文の三種で構成されていたための命名で、当然ながら愛読したのは現代文である。物語の面白さに何度となく読み返し、神話そのまま私の日本史となっていた。

戦争中の小学校(国民学校)入学だから「イザナギ・イザナミ」も「国来い国来いエンヤラヤ 神様綱引きお国引き」などの唱歌も問題がなかった。

それが、昭和20年の敗戦と共に何事記は捨てられ「国のあゆみ」なる教科書が与えられた。これは面白くない。私には「土器や石器」の何が大切なのかよく理解ができず、以後は歴史への興味をそがれてしまう。「人間が活躍する話がいい」などと思っていた。その私が昨年何事記の本場に住まっている。神話の復習しようか？





塔の頂上から解体前の東塔を見学する参加者。白、赤、黒の三色の塔

目の前に凍れる音楽

薬師寺・東塔  
解体前に公開

## 2、薬師寺東塔 解体前の見学会

修学旅行でお馴染みの『薬師寺東塔』が解体修理されることとなり、大きな覆屋が塔に近付いてすっぽり被さる様子は遠くからでも見る事ができた。そして内部の解体をする前に足場に上がって間近に塔を見る希望者の募集があったので、勿論応募した。

腹の中で、中華料理の特等が当たったから憑いているかとも思ったが、見事に落選。限定500人のところ、全国から多数の申し込み。柳の下に泥鰌は居りませんでした。

新聞によると塔の頂上で『凍れる音楽』と評された水煙の飛天も間近に見られたとのこと。かつて高田好胤師が写真を示しながらユーモアのある語り口で修学旅行生に説明しておられた姿が思い出される。塔の修復完成は平成30年の予定と聞く。

## 3、矢田山山麓散歩

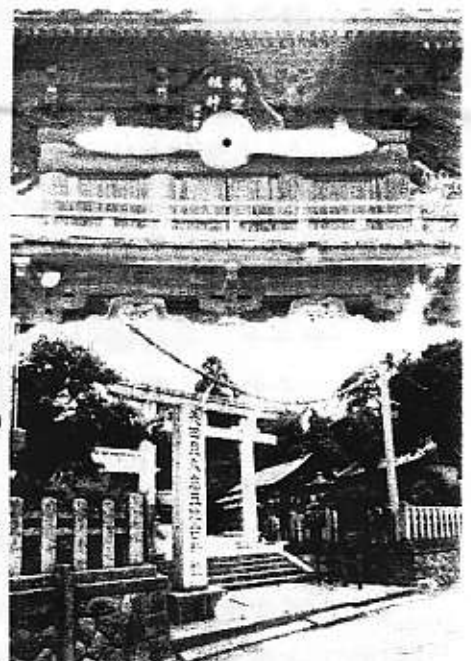
法隆寺は矢田山塊の南端にあり、奈良へ行く時は東麓、生駒への用事は西麓を利用させてもらっている。

矢田山麓は歴史的に古く、古寺古跡が多いと承知していたが、法輪寺・法起寺・慈光院・矢田寺のほかは訪問する機会もなく過ごしてきた。

今回(6/7)は時間の余裕もあっていつもと違う道に行く。例により奈良の迷路に行き詰まり、転回して路端の老女に道を尋ねると、「この先にプロペラがある」と言う。何やろうと進めて行くと神社があった。矢田坐久志玉比古(やだのいすくし)神社という。

入口に古代からの歴史が記され、「航空の神様」とある。成程、拝殿の上に大きなプロペラがあり、ゼロ戦の勇士・源田実氏の署名があった。航空関係者の絵馬奉納が多い。

落ち着いた静かな好い所。時には違う道に行くのもいいもんだ。思わぬ発見をすることがある。



#### 4、大和の歴史は長く複雑

孫が学校へ行き、ほっとした時、救急車。救急病院が近いから通常では驚かないが、わが家を通り過ぎて「ピーポー」が止まったので「どこのお宅か？大丈夫か？」とみると、数十m先の私道小路に救急車。しかし、白衣の係官が立つだけで近所の人誰もいない。門構えも大層な立派なお宅だが、表札は見え、家人を見かけたこともない。

このことを友人に尋ねると「権威主義のお宅ではないか」「歴史を知らぬと親交できない」という。判るようで判らない答えだが人権とか差別にも関連があると言う。

「歴史と権威」 大和の地に代々住んで居られる方々は、長い歴史を背負って今日に至り、他人には想像しえぬ縁(エシ)があり、そこから生まれる「独自の歴史解釈」や「伝統的慣例」等などはよそ者には理解し難いものだそうだ。

例えば ☆法隆寺は、○誰が、○何故、○いつ建立したか。☆大和に古墳や寺社が多いのは何故かなどは、教科書に一応の答えがあるが、記紀等に記されていない土地の伝承や、家に伝わる独自の秘めた物語りがあり、そこから権威主義が生まれてくるという。

いくつかの図書では、そのキーワードを『恨みや怨恨』といい、法隆寺についても、一族20数人が殺された聖徳太子の長子の山背大兄皇子一族の供養が関係するらしく、簡単に「太子が建立した」と言えないという。そのあたりの複雑な事情を理解しないといけないが、難しいことなので互いに「知らぬ顔」の疎遠になるという。

もう一つの「人権」。以前、大阪や滋賀の音楽研修で「教師の指示語」が話題になったことがある。関東ではきびきびと指示を出すのは当然としていたが、関西では「○○ちゃん。ちょっと聞いて呉れはりますか？」から始まって「ウトオテ(歌って)呉れはりますか？」と互いに納得しあい、穏やかに授業を進めなければならないらしい。いわゆる「差別教育」のことで、子供を差別してはならぬのは当然だが、「教師の指示語・丁寧語」が適切かどうかでは「人権」の認識に差があって、議論がかみ合わななかつた。

現在、私がリコーダーの研修に行く『人権文化センター』。案内パンフがないので、これも旧友に尋ねるが、「人権の理解」は容易ではないという。長い間の征服・非征服の歴史関係があり、人を人と思わぬことがまかり通っていたので、理論はあっても融和は難しく、互助よりも見ぬ振り、知らぬ振りが必要。人情は表に出さないものという。

公共・共助・マナーなど無視され易く、公金着服や詐欺等の不正事件が後を断たない。「みんなやってる。バレたら不運。」という風潮を当然とするのは情けない。

人権をネタに「私を特別扱いにせよ」と無理難題を押し付ける人もいて、近ごろ賑やかな大阪市の改革論議も、根底にこのことがあるだろうという。

太子のお膝下で 『和』 の実践をするのは。ウーム 簡単そうで難しい。



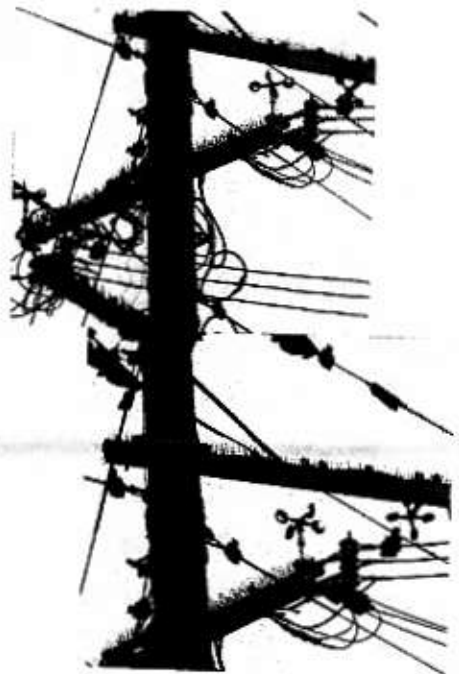


## 5、カラスのフン害

カラスによる糞害に悩まされている例は全国各地でよく聞くこと。拙宅付近もカラスが多く清水とは少し違う奈良弁で朝から「ガオガオ」と鳴く。

鳴くだけなら「うるさいね！」で済むが、カラスの糞があちこちに散り、糞に含まれる微生物によって病人に難儀が及ぶらしい。電柱を管理する会社へ対策を依頼することとなり、関西電力・電話公社・有線放送それぞれの担当が来て対策を施した。

- ① カラスが嫌う塗料(?)を電柱上部に塗る。
  - ② 針がびっしり植わった止まり木を付ける。
  - ③ 風力計のような風車を付けて脅かす。
  - ④ 電線に正体不明物(?)を付け、テグスで固定。
- など、いろんなことをしてくれたが、近所の者は「カラスは頭がいいからすぐ慣れるよ」という。病気治療をカラスの頭脳と競うのでは大変!



### 俳句と川柳 (奈良の昨今風景：奈良新聞より)

置き去りにされし龍田の残り鳴	竹の子を猪(シ)と競いて掘り出せり
花吹雪 今鐘楼を過ぎつあり	泰西の名画のような古寺若葉
砂利音がステレオになる若葉寺	法隆寺 青葉の陰に子規の句碑
梵鐘を聞きつ開きし牡丹かな	拝観を拒む古刹にツツジ燃え
校長が菩薩になりし練り供養	腰伸ばし金環食は塔の上
朝歩き 御陵に雉子の鳴き続く	環濠や 地鳴りの如き牛蛙
ほたる去りぼつねんという石仏	臘月 狐が恋に走りおり
黄砂耐えガンジン和上しかめ面	秘仏開け 拝観料の金庫開け
仏一人 座る本堂 クールビズ	月影の壘半壘 青葉木菟
若カラス ウグイス真似る声変わり	ミュートして声は消したが顔残る

## 6、奈良日中は創立50周年の記念式典

奈良日中は本年創立60周年になるという。静岡日中も古いが奈良も凄い。

しかし、運営は容易ではないらしい。全国いずれも同じだが、会員が減少して活動の手がなく、会計も先細りで苦しんでいるようだ。県内に沢山あった支部もいつしか有名無実となり、空中分解しているとのこと。

意見を求められたが名案があるはずもない。清水日中での活動のいくつかを紹介し、春節の会に100人くらいは集まると申し上げたら驚いておられた。若者と組んで行う行事を工夫したい。奈良日中の創立60記念式は11月16日